

授 業 科 目 名	単位数	授業対象年次	開講曜日・講時	開講年度
生命圏倫理学	2	前期課程	第 1 学期 金曜日・3 講時 詳細は別途周知	毎年開講
担 当 教 員	木島明博教授、齋藤忠夫教授、佐藤衆介教授、長谷部正教授、山谷知行教授、木谷忍准教授、二宮茂准教授、川本隆史非常勤講師			
授 業 テ ー マ	生命圏における様々な問題に対する倫理的思考に触れ、生命に携わる科学技術者の倫理観を養う。			
授業の目的と概要	<p>人間、生物群そしてそれを取り巻く生態系・環境を生命圏と考えると、農と農学は生命圏と協調し、共存してきた歴史を持つ。これからも私たちが生命圏の中で持続的に共存するためには、生命圏の一員としての農学系研究者・学生の健全な思考と倫理が求められる。</p> <p>近年におけるライフサイエンスの急速な発展、そして資源・環境・食糧問題の深刻化を背景として、環境の保護と修復、人類の発展への寄与と多様な生物の保存・利用を担う農学の基盤となる「生命圏の倫理」について考える。</p>			
キ ー ワ ー ド	社会的責任、環境倫理、生命倫理、バイオテクノロジー			
達 成 目 標	生命圏の倫理についての考察を通して、環境保全・人類発展に寄与する科学技術者の開発・研究意識や態度を身につける。			
各 回 の 授 業 内 容	<p>(第 1 回)オリエンテーション、生命圏倫理学の射程。(木谷)</p> <p>(第 2 回)家畜福祉の倫理と科学：意識を有する存在である家畜への配慮、世界及び日本の動き、実際の飼育法を学習する。(佐藤・二宮)</p> <p>(第 3 回)安全性の高い動物性食品の確保、飼養における動物の権利とヒトの生命倫理に基づく食物確保からみる現代の家畜生産技術の問題点と解決策を考える(齋藤)</p> <p>(第 4 回)GM 作物の作出と利用について倫理観を構築：GM 作物に関して、食糧や環境に対するリスクとベネフィットについて判断できる科学的根拠を学習する。(山谷)</p> <p>(第 5 回)科学者の社会的責任：農学を学ぶ研究者としての科学論文発表の倫理について。(山谷)</p> <p>(第 6 回)農村風景の倫理的な性格：風景の倫理性について物語り論をもとに考察し、農村風景への適用可能性を検討する。(長谷部)</p> <p>(第 7 回)水の危機：命をつかさどる水資源環境の現状と管理について。(木谷)</p> <p>(第 8 回)海洋生物資源の保全と生産利用に関する倫理について。(木島)</p> <p>(第 9 回)公共経済学による環境財供給：社会的ジレンマ、共有地の悲劇など。(木谷)</p> <p>(第 10 回)環境リスクの考え方とリスクコミュニケーション。(木谷)</p> <p>(第 11 回)環境教育について：環境教育誕生の歴史的経緯、持続可能な開発のための環境教育、地域環境教育の実践例。(木谷)</p> <p>(第 12-15 回)生命圏倫理学の系譜と課題(4 コマ集中)：『リーディングス環境 1：環境と人間』(有斐閣,2005 年)の解題(川本隆史)に沿って、生命圏倫理学の系譜と今後の課題を展望する。(川本)</p> <p>講義順の変更あり。</p>			
成 績 評 価 方 法	全講義の 80%以上の出席者にレポート提出を求め、成績を判定する。レポートは与えられたテーマ毎に担当する教員が採点し、その平均点と出席点を合わせて評価する。			
準 備 学 習 等	特になし。			
教科書または参考書 (文 献)	『生物科学』農文協、2005 年 3-4 月号(特集号)			
備 考	授業の窓口：木谷忍(環境経済学分野) 授業内容等については、各担当教員に相談のこと。			